

手をさつたまゝ中心に向つて四歩進み、四歩目の時、上體を屈め、下にあるバケツを両手でかゝへる様にする。

トリニコイ

バケツをかゝへたまゝ、屈み腰で後へさがり元の位置に歸る。

ヤツテコイ  
前と同じ動作を右、左も一回づゝ行ふ。

ドンドンザブリト

ナミヨコイコイココマデコイ

一番同じ。

テノナルトコマデ

圓の中心に向ひ、三び込む様な形を二回行ひ乍ら進む。  
ヨセテコイ

元の位置に後すさりにさがりに走り乍ら戻る。

談話

第十三週

物いふ木

お姫様が、魔法にかゝつて、木に化けて森の中にある  
こ、それを王様が探し出してその人間にする話。後の風  
琴物語と共に、不思議な力が一編を終始してゐて、いさゝ  
かの矛盾のないゝ話。

星の話

勿論星を特に取り出していくのでは無く、七夕まつりに  
關聯したもの。年少組では星の話はしなかつたが、この頃  
にもなれば、七夕さまが、星を祝福する祭りである所以を  
知らせる必要もある。又夏の晴れた大空に眩く星の數々、  
天の川なごの話をし、今晚にでもお庭に出てお家の方達  
と一緒に見てござんなさいなごゝもいふ。

## 第十四週

はなしあひ

夏休みの前々日等に、夏休みの近いことを話す。妙なもので、毎日幼稚園に来ることを、この上なく楽しんでゐながら、来られなくなるお休みの、その夏休みを大そう喜ぶ。つまり日々登園してたのが、来なくなるといふ變

### 観

### 察

## 第十三週

七夕まつり

年中行事の中でも一番ロマンティックで、床しいこのお祭りは幼稚園でも是非し度いものゝ一つである。手技に、談話に、誘導されてこの週はオール七夕であるから今更言ふ迄もないが、それにほんのつけたりとして、色彩感覚と言ふごと少々堅くるしくなるけれど、そんなものを養ふに洵によい機会だと思ふ。

### 朝顔の成長

殊更に言ふ迄もなく、この朝顔はみんなでまいしたものである。その成長にはいつも氣をつけてゐる筈である。けれどこの位にまで伸びる頃は、兎もするべ忘れ勝になる。そこで氣をつけて子供達と一緒に世話ををする機会を多くし度いものである。

化が一寸もの珍らしくもあり、又、この夏ごいふ言葉の齋らしてくる海、山の生活が樂しく豫想されるのでもある。豫定云つても、子供自身にそれが云へる筈もないで、こちらから、何處へ云は、決してきかない。子供の方からいろいろ云ふのは、さうへ云ふ受け取れておく。いろいろの諸注意は、生活訓練の方で。